

第43週の発生動向 (2004/10/18~2004/10/24)

- 1 手足口病については、先週に引き続き上十三保健所管内で**警報**が出ているため注意が必要です。
- 2 気温が低い状態が続いており、インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘の好発する季節になりました。

第43週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															
(60) 咽頭結膜熱			3	0.30	2	0.22							5	0.12	1
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.75	6	0.60	3	0.33			7	1.17	3	0.75	25	0.60	-7
(62) 感染性胃腸炎	14	1.75	10	1.00	4	0.44	3	0.60	6	1.00	12	3.00	49	1.17	-1
(63) 水痘	5	0.63	5	0.50	7	0.78	5	1.00	3	0.50	2	0.50	27	0.64	-9
(64) 手足口病					14	1.56	1	0.20	36	6.00	7	1.75	58	1.38	13
(65) 伝染性紅斑	1	0.13	3	0.30									4	0.10	-5
(66) 突発性発疹	4	0.50	5	0.50	11	1.22	1	0.20	2	0.33	5	1.25	28	0.67	5
(67) 百日咳															
(68) 風しん											1	0.25	1	0.02	±0
(69) ヘルパンギーナ	3	0.38	1	0.10			1	0.20					5	0.12	-20
(70) 麻しん(成人を除く)															
(71) 流行性耳下腺炎	4	0.50			11	1.22	2	0.40	4	0.67			21	0.50	±0
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎					1	0.50	1	1.00					2	0.18	-5

	定点数			
	インフル エンザ	小児科	眼科	基幹
青森	13	8	2	1
弘前	15	10	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

インフルエンザ定点については、内科定点と小児科定点を合わせたものです。

■ は注意報、■ は警報です。 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (16年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) R Sウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内: 8人 合計8人 (16年計 64人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類定点把握疾患) 八戸保健所管内: 2人 合計2人 (16年計 94人)

感染症の窓

インフルエンザ (influenza)

**最近の話題** 国立感染症研究所10月25日発行のIASR速報記事によると2004年8~9月、海外渡航者より3株のA香港(H3N2)型インフルエンザウイルスが分離されたという報告がありました。その渡航先は中国、オーストラリア等です。同年9月の速報においても大阪府で5歳男児の鼻腔ぬぐい液からA香港(H3N2)型ウイルスが分離されたという報告がありました。

**発生疫学** 毎年、11月上旬から散発的に発生し、1月下旬~2月上旬にピークを迎えます。発生と流行のピーク時期はその年によって異なります(図1)

**病原体** インフルエンザウイルスには、A、B、Cの3型があり、流行的な広がりを見せるのはAソ連(H1N1)型、A香港(H3N2)とB型です。

**感染経路** 空気あるいは飛沫感染。潜伏期間は1~3日。発症後、約3日まで感染性が強い状態が続きます。高齢者、慢性呼吸器疾患患者、循環器疾患患者、免疫機能低下患者などでは重症化するため特に注意が必要で、予防にはワクチン接種が有効です。ワクチン接種については医師と相談することをお勧めします。

定点あたり報告数

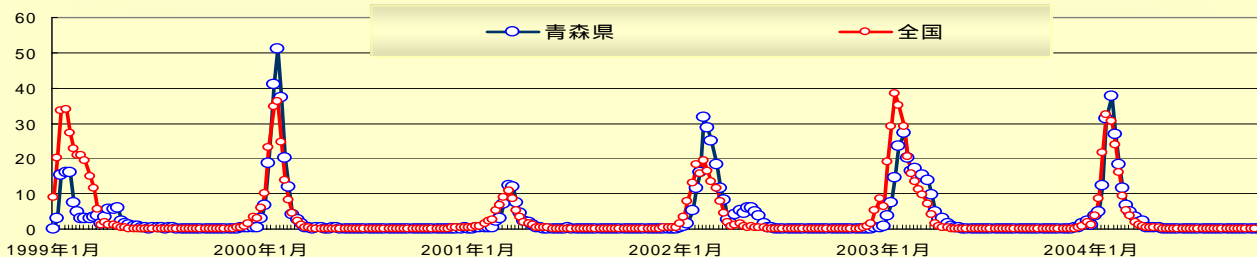


図1 全国および青森県における過去5年間の定点あたり報告数の推移